

通信制高校サポート校という選択肢

—和歌山県、通信制高校学校法人田原学院慶風高等学校で考える—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：学習塾もいよいよ通信制高校のサポート校の時代ですかね。

A：(1)カドカワ様が運営する「N高」の生徒数が、あれよあれよという間に9月で2万名を超えたことがマスコミなどで高く評価されたため、中学生や高校生、保護者、教育関係者の間で「通信制高校」の認知度が一気に高まりました。

(2)中学2・3年生の進路相談で通信制高校への進学を希望する中学生や保護者がほとんどすべての学習塾で見うけられます。

(3)1つ1つの学習塾が、学校法人を設立して高校卒業資格を付与することができる通信制高校をスタートすることは、困難を極めほぼ不可能です。そこで、開倫塾はじめ全国の学習塾の多くは、通信制高校のサポート校への道を超少子化で塾生減少・売上減少の中で模索し始めたと思われます。

Q：和歌山県の通信制高校の老舗である田原学院慶風高等学校を訪問なさったそうですね。

A：(1)全国学習塾協同組合主催の高崎市での教育展で、開倫塾主催「全国模擬授業大会」入賞者による模擬授業をさせて頂いたことがきっかけで、慶風高校校長の田原先生とお話させて頂き、和歌山県を訪問させて頂きました。

(2)通信制高校田原学院慶風高校は2005年に設立され、所謂「一条校」として卒業生には高卒資格が付与される正式な高等学校です。

(3)修業年限は3年以上6年以内で、最短3年で高校卒業資格を取得することができます。

Q：通信制高校とサポート校の関係はどのようなものですか。

A：(1)通信制高校卒業のためには、3年間にわたって毎月1回のレポート提出が欠かせません。

サポート校では週2～5回、1回2時間くらい履修した全教科のレポート提出のための指導を行うことができます。

*この指導費がサポート校の収入となります(直接サポート校に納入)。

(2)通信制高校卒業のためには、3年間にわたって毎年2回の「定期試験」を受験し、合格点を取らなければなりません。

*定期試験対策の指導も、サポート校の週2～5回の指導に含まれます。

*「3大検定」などと同じように、「定期試験」はサポート校内で行うことができます。

(3)通信制高校卒業のためには、3年間にわたって毎年10日間のスクーリングを修了することが求められます。

*コロナ禍の現在、スクーリングのうち6日間は「NHK 高校講座」で代用することができます。

*スクーリングは、慶風高校の場合は和歌山県で行われます。ただし、サポート校で一定数の生徒がまとまれば、サポート校でのスクーリングが認められることもあります。スクーリングで指導できるのは、有効な高校教員免許を持ち、学校長と和歌山県が認定した教員に限ります。

Q：通信制高校慶風高校へはどのような生徒が通っているのですか。

A：(1)中学のときに不登校であった生徒や不登校気味であった生徒で、高卒資格を取得。大学、短期大学、専門学校、専修学校などへの進学や就職を希望する生徒。

(2)特別な資格取得を目指したり、専門性を磨きながら高卒資格を取得したい生徒。

(3)医学部医学科や東京大学・東京工業大学・慶應義塾大学・早稲田大学など難関大学、中堅大学などすべての大学への受験勉強を中心に高校生活を送りたい生徒。

(4)外国出身で中学校や高校の勉強についていくことが困難なため、高校入試や大学入試の受験が困難な生徒で、日本語とともに高校の教科内容や大学入試の勉強を自分のペースでじっくり行いたい生徒。

(5)様々な背景を持った生徒が、無理のないペースで高校の学習範囲をじっくり学び、月1回の「レポート作成」、年2回の「定期試験」、年10日間の「スクーリング」で高校卒業資格を取得する。これが通信制高校慶風高校です。

Q：部活動や学校行事もあるのですか。

A：(1)野球部やテニス部は非常に盛んです。

(2)コナミからの要請で、2022年4月から「eスポーツ部」がスタートします。

(3)修学旅行や様々な講演会などイベントも盛んです。

*サポート校の高校生もすべての活動に参加可能です。

Q：先生方は、どのような方々ですか。

A：(1)創設者の田原サヨ子先生は、元高校の数学の先生。学習塾の経営を経て、学校を設立。自動車整備やホテルの専門学校も経営。ブルネイから留学生も招いています。

(2)教頭先生は、公立高校の元校長先生で超ベテランの先生です。

(3)教務主任の先生はじめすべてのスタッフの先生は、元気はつらつとした教育熱心なベテランの先生ばかりです。

(4)サポート校の先生方への情報提供や Know How の共有も十分可能と考えます。

Q：学習塾の先生方にお伝えしたいことはありますか。

A：超少子化にコロナ禍が加わり、塾生減に直面している学習塾の経営をこれからどうするか。中学生への進路相談で通信制高校を希望する保護者が少しずつ増えている実情を目の当たりにし

て、サポート校への道を模索するのも1つの生き残りの道と考えます。教育に関する価値観・理念の合致する通信制高校は必ずあると確信します。ゆっくりお探してください。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も、皆様がお読みになれば必ずためになる本をご紹介します。

(1)1冊目は、岸田首相が「新しい資本主義」を提唱している中、最も参考になるのは、中国の古典「四書五経」の1冊、「孟子」です。危機的な状況の中、国家の運営をどのように行ったらよいか。「孟子」の現代語訳だけでも全文通読、内容の理解に励めば解答は容易に導き出せます。「孟子」の現代語訳で優れているのは、小林勝人訳注「孟子(上)(下)」岩波文庫、岩波書店1968年2月16日刊と内野熊一郎著「孟子」新釈漢文大系4、明治書院1962年6月15日刊の2冊です。

*「孟子」を一度も通読したことのない先生は、ぜひこの際に「現代語訳」だけでも全文をゆっくり通読なさってください。子どもたちの教育にも役立ちます。

(2)2冊目は、日本経済新聞の朝刊の文化欄に連載中の安部龍太郎作「ふりさけ見れば」です。遣唐使の阿倍仲麻呂の唐での勉強ぶりや働き、生活が極めてわかりやすく描かれています。森公章著「阿倍仲麻呂」人物叢書、日本歴史学会編、吉川弘文館2019年12月1日刊と併せて読むと、遣唐使、特に留学生たちの日本の発展を思い懸命に学び続けた努力がよくわかります。

*その唐の文化・文明の基礎となったのが、孔子であり孟子でした。現在の日本への留学生の多くも我が祖国や地域、家族をどうにかしたいとの熱い思いで日本で学び、働き、活動しています。どのようにその思いに応えるか、仲麻呂はじめ遣唐使の勉強ぶり、国を思う気持ちは参考になります。

(3)3冊目は、波頭亮著「文学部の逆襲 人文知が紡ぎ出す人類の『大きな物語』」ちくま新書、筑摩書房2021年10月10日刊です。岸田首相の唱える「新しい資本主義」のあり方を極めてわかりやすく描き出しています。ちなみに、波頭氏をご紹介くださったのは、波頭氏とマッキンゼーのコンサルタント時代に同僚であった元外務大臣で自由民主党幹事長にご就任の茂木敏充衆議院議員で、25年以上前に数年間にわたって「足利未来倶楽部」という研究集団で戦略論のゼミを行って頂きました。以来、波頭先生の本は愛読書の1つにさせて頂いております。

(4)4冊目は、八代尚宏著「日本的雇用・セーフティネットの規制改革」日本経済新聞出版2020年12月18日刊です。

(5)5冊目は、シリーズ人間教育の探究① 梶田叡一・浅田匡・古川治監修「人間教育の基本原則、『ひと』を教え育てることを問う」ミネルヴァ書房2020年12月5日刊です。全5冊シリーズの1冊です。本シリーズと梶田先生著「自己意識論集」全5冊、東京書籍2020年11月30日刊は、公立校の先生方だけではなく、すべての学習塾、予備校、私立学校幹部の先生の必読書と確信いたします。コロナ禍から脱出直前の、この12月から3月までの4か月間に、この2つのシリーズを少しずつ読み進め、希望溢れる2022年4月を皆さんで迎えようではありませんか。

2021年11月10日記